文化経済部会（R6.5.9）

資料６

文化審議会第４期文化経済部会　第1回　ご説明資料

群馬パーセントフォーアート推進について

〔配付資料〕
- 「群馬パーセントフォーアート」推進条例
- コンセプトペーパー
- デザイン／アートワークデータベース：コンセプト策定報告書

令和６年５月９日

群馬県地域創生部
文化振興課長　佐藤貴昭

群馬県のこれまでの取組

2023
年度

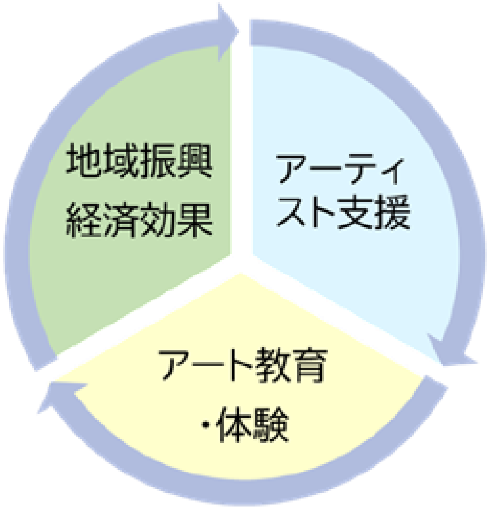
「群馬パーセントフォーアート」推進会議

コンセプトペーパーの制作

2022
年度

「群馬パーセントフォーアート」推進条例の制定

全国で初めて、県予算の一定割合をアート振興
に生かすことを定めた



2020
年度

「アートによる地域創造会議」報告書

「モノ」を中心とした「1％ for art」から、
「コト」を中心としたより幅広い取組に転換

2019
年度

山本知事　政策集

・アーティスト・イン・レジデンス（芸術家の滞在・創作支援）を支援！
・新規公共建設費の１％を芸術にあてる「１％ ｆｏｒ ａｒＴ」で文化を振興！

群馬パーセントフォーアート推進条例

他にはない価値を持ち
人を惹きつける求心力を持つ群馬県

安定的な財源

県予算・民間寄付

地域経済の活性化

新たな価値創造・経済効果

福祉
×
アート

観光
×
アート

まち
づくり
×
アート

アート振興

アーティスト支援
アート教育　など

市町村・県民・事業者が主体的に携わる

「群馬パーセントフォーアート」推進会議　委員名簿

所　　属	氏 名
座長　群馬県知事	山本　一太
東京藝術大学　美術学部　先端芸術表現科　准教授	荒木　夏実
永山祐子建築設計　代表	永山　祐子
中之条ビエンナーレ　総合ディレクター	山重　徹夫
群馬県建設業協会　会長	青柳　　剛
株式会社SUBARU　商品企画本部　デザイン部　担当部長	戸叶 大輔
群馬経済同友会　代表幹事	深井 彰彦

（委員はアイウエオ順）

群馬
パーセント
フォーアート
コンセプトペーパー

Gunma-percent-for-Art Concept paper

群馬県では、欧米発の「1% for art」の精神を生かしながら、アートの持つ様々な力を活用して、人々を惹きつける求心力を持つ群馬県の実現と県民の幸福度の向上を図るため、「群馬パーセントフォーアート」推進条例を制定しました（令和5年4月1日施行）。県予算の一定割合をアート振興に充てることを明文化した全国初の条例です。

群馬モデルの
「パーセントフォーアート」

条例では「1パーセント」ではなく、「パーセント」という表現にしています。公共投資に限定して1パーセントを支出する欧米発祥の「1% for art」の精神を生かしながら、より広く予算全体から一定割合を支出するといった、群馬県ならではのアートによる新たな地域活性化（群馬モデルの構築）を目指します。

欧米発祥の
1% for art

公共工事、もしくは公共建築（建物・橋梁・構造物、公園等）の費用の1%を、その建築物や空間を装飾するアートのために支出しようという考えで、アメリカで20世紀初頭に始まりました。戦後、文化芸術振興策の一つとして欧米で導入され、現在では韓国、台湾も法制化しています。

群馬パーセントフォーアート
コンセプトペーパー

「群馬パーセントフォーアート」推進条例
理念の実現に向けた骨組み

一定の予算をアート振興に使う

×

サステナブルな仕組み

群馬パーセントフォーアート　アートの力

経済社会の成熟化、グローバル化、デジタル化、価値観の多様化に伴い、地域の差別化が困難な時代

実現に向けた取組①

一定予算を
アート振興に

群馬県予算の投資的経費の

0.1% 相当額

をアート振興施策に計上

R6年度当初予算

投資的経費		アート振興
約960億円	▶	約9,000万円

群馬パーセントフォーアート

実現に向けた取組②

民間投資を
呼び込む

1 民間支援にインセンティブ

寄付金優遇·ふるさと納税

2 アートエコシステムの構築（仮称）

法人 ぐんま未来デザイン 設立

3 アートへの投資促進

支援ファンドを創設

詳細は
コチラ

群馬パーセントフォーアート　９つの提言

提言1
パブリックアートの推進

提言2
コーディネーターの
選定･育成

提言3
ラーニングプログラム
の実施

提言4
アーティスト支援
(働く場づくり)

提言5
アート支援団体の育成

提言6
アーティストビレッジ
の設置

提言7
群馬モデルの提案
(企業×アート)

提言8
群馬モデルの提案
(ビジネス×アート)

提言9
新たな価値の創造

群馬パーセントフォーアート

令和６年度事業

アーティスティックGUNMA

組替新規　地域創生部

【予算額】43,688千円

（新規）群馬モデル形成事業　10,000千円
　地域課題をテーマにアーティストによるワークショップ等を通じて制作した作品をパブリックアートとして設置する実証事業を実施

（新規）アート・エコシステム調査研究　10,800千円
　条例に基づくアート振興施策を推進していくための民間投資を呼び込むサステナブルな仕組みを調査研究

（新規）デザイン・アートデータベース・ホームページ構築　5,600千円
　企業等のアート活用を促すデザイン・アートＤＢを構築し、県内のアート事例等を紹介するＨＰを制作

・アート支援団体の育成事業や県庁舎アートデザインプロジェクト等を実施

デジタルミュージアム推進

継続　地域創生部

【予算額】34,683千円

・県立美術館・博物館が収蔵する文化資源をデジタル技術を用いて館外で活用し、公共空間を創出
・県内集客地でデジタル展示を実施

障害者芸術文化活動支援センター運営

継続　健康福祉部

【予算額】11,927千円

・Ｒ５年開設の障害者芸術文化活動支援センター（こ・ふぁん）運営
・地域ネットワークの構築、相談支援、企業等と連携した発表機会の提供、芸術上価値が高い作品の支援体制の検討

ぐんま未来デザイン（仮称）

（渋谷未来デザインHP転用）

モデル

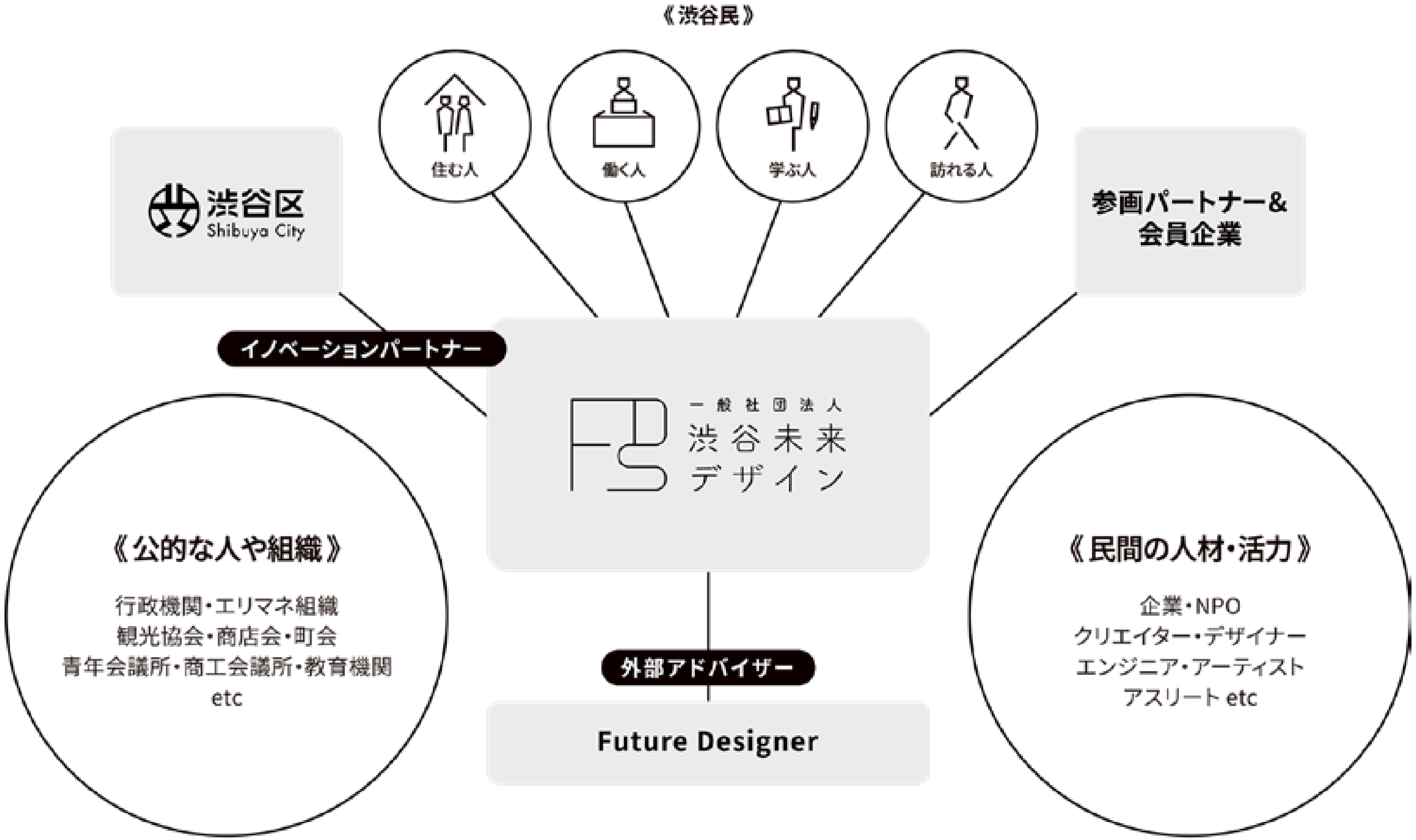
渋谷未来デザイン

「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

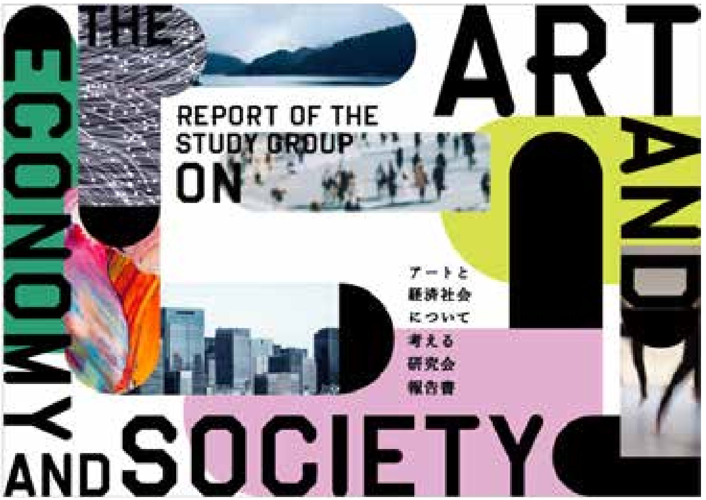
一般社団法人渋谷未来デザインは
多様性あふれる未来に向けた世界最前線の実験都市「渋谷区」をつくるため
渋谷に集う多様な人々のアイデアや才能を、領域を越えて収集し
オープンイノベーションにより社会的課題の解決策と可能性をデザインする
産官学民連携組織として2018年に設立されました。

『Create Culture, Drive Diversity & Social Innovation.』をキーワードとし
多様な個性・価値観を原動力に、新しいカルチャーの創発と
ソーシャルイノベーションを起こすことで、都市の可能性を拡張し続けます。

これからの街づくり、これからの渋谷区。



（参考）　アルスエレクトロニカ（リンツ市）



経済産業省「アートと経済社会について考える研究会報告書」より抜粋

ARS ELECTRONICA

3 アルスエレクトロニカ[97]

概要

ドナウ川流域の欧州の中央に位置する人口20万人程のオーストリア第3の都市リンツ市で展開されるアルスエレクトロニカは、リンツ市の公営会社アルスエレクトロニカ社が展開する「アート、テクノロジー、社会」をテーマとする文化・教育活動の総体である。

リンツ市は、産業革命後は鉄鋼や化学等の重工業の都市として栄えるも、1970年代頃から脱工業化の流れの中で衰退し、一時失業率は12～15%にまで落ち込んだ。その再生が模索される中で、電子音楽のライブパフォーマンス等のイベントとして、1979年にアルスエレクトロニカが開始され、未来志向の文化都市として転換に図ることに成功した。

アルスエレクトロニカの取組は、年1回秋に開催される祭典であるフェスティバル、フェスティバルの際に表彰式が行われるプリ、美術館・文化センターとして裾野拡大に貢献しているセンター、研究施設兼アトリエとして新たな未来の種を生み出しているフューチャーラボ、社会実装されるソリューションを提供するソリューション、これらで培ったノウハウを諸外国等に提供するエクスポート等で構成される。プリやフェスティバルを通じた情報やネットワークの集積やセンターを通じた裾野の拡大とフェスティバルやプリによるトップ層の拡大等、システムの有機的な連携が図られている。

効果・評価

市民の教育や意識の向上、政策への影響、アーティストの様々な活躍の場、イノベーションを求める企業など多様な分野に好影響を与えている。

アルスエレクトロニカ・センターは年間150社の企業が活用し、リンツ市には、ハイテク産業やR&D部門を中心に1万以上の企業が街に集積するに至った。

取組のポイントや課題との対応

アルスエレクトロニカには、実験的取組を裾野からトップ層まで幅広く関わることができる環境がある（B1、B7）。センターを通じて裾野を拡大している一方で、プリやフェスティバルを通じて情報やネットワークが集積し、トップ層の拡大が図られている。地元の小学生は学校教育の一環で、毎年、アルスエレクトロニカ・センターを訪問する。また、フェスティバルでは、アーティストの作品にとどまらず、地元の高校生や大学生の作品を幅広く受け付けている。アーティストは、フェスティバルでの出展やプリへの応募をすることができる。展示する作品は完成品である必要はない。「新しいことにトライする」実験的風土は形成され、「未来の実験区を形成」している。裾野からトップまで幅広く包括する「カオス」の形成を通じて、街全体を「実験区」にすることで、「未来の実験場」として機能している。

また、アルスエレクトロニカの各種部門が有機的に機能することで、経済活動を生み出しつつ、持続可能なモデルを築いている（B1、B3）。プリやフェスティバルなどの非営利部門とセンター、フューチャーラボ、エクスポート、ソリューションズ営利部門の双方を展開し、持続可能なエコシステムを実現している。実際、アルスエレクトロニカ社の収益の7割が事業収益である。

さらに、各国政府等に出展枠を開放し、ネットワークを形成しつつ資金を調達している。オープンな戦略でグローバルなハブとしてのポジションを築き、情報やネットワークが収集できる仕組みを作ることに成功している。

97　Ars Electronica（https://ars.electronica.art/, 2023年3月24日情報取得）、鷹尾和彦『アルスエレクトロニカの挑戦：なぜオーストリアの地方都市で行われるアートフェスティバルに、世界中から人々が集まるのか』学芸出版社, 2017年。

（参考）　めぶく。前橋市

「めぶく。」まちづくりの取り組み

基盤

まちづくりの基盤策定

前橋ビジョン(2016.8)：民間主導により官民連携して策定

Green&Relax構想(2019.3)：商工会議所策定

前橋アーバンデザイン(2019.9)：前橋市策定

資金調達の仕組

まちづくりに関するファンドの整備

前橋アーバンデザインファンド(2022.9)：前橋市
太陽の会から1億円を寄付（2022.5)

前橋まちづくりファンド(2021.3)：
しののめ信用金庫とMINTO機構により1億円

創造的な芽吹きを
育むため
アートやデザインを活用

プロジェクト

太陽の会プロジェクト
太陽の鐘(2018.3)
馬場川通り整備(2024.3)

民間開発プロジェクト
白井屋ホテル(2020.12)
まえばしガレリア(2023.5)

担い手

まちづくり組織の設立

太陽の会（2017.3-)

一社）前橋まちなかエージェンシー(2016.6)

一社）前橋デザインコミッション(2019.4)

まえばしガレリア

アートギャラリーと生活空間が共生する
コーポラティブクリエイションハウス

ART DESTINATION

創業300年の歴史が**白井屋ホテル**として
蘇り再生。様々なプロジェクトが芽吹く。

参考

自然エネルギーの爆発的な普及を実現することを目指す新進企業、パワーエックス（本社：東京都）

日本最大級の蓄電池組立工場〈Power Base〉

工場

まちづくり

建設地がある岡山県玉野市は、瀬戸内海と緑の山々に囲まれた港町

妹島氏が建築家の西沢立衛氏と共同で率いるSANAA（サナア）が設計した施設もあることでも国内外に知られる地域

周辺地域は「瀬戸内国際芸術祭」の舞台

アート

直島（香川県）や犬島（岡山県）などの諸島とのフェリーが発着
瀬戸内のアート周遊ルート

木村崇人「カモメの駐車場」
Photo: Osamu Nakamura

地域・日本の新たなレガシー形成事業（観光庁）
瀬戸内産業芸術祭『S・A・I』〜Setouchi Art & Industry〜

群馬県庁舎アートサイト①

群馬県庁舎アートサイト

群馬のランドマークでアートに触れる

中之条ビエンナーレ
NAKANOJO BIENNALE 2023

参加アーティストの作品を展示

展示期間 **3/1(金)～24(日)**

場　所 **群馬県庁**

入場無料

群馬パーセントフォーアート

群馬県庁舎アートサイト②

半谷 学

いくら まりえ

浅野 暢晴

- 議会庁舎前広場
- 正面玄関入口
県民駐車場エントランス
- 県民駐車場屋上庭園等

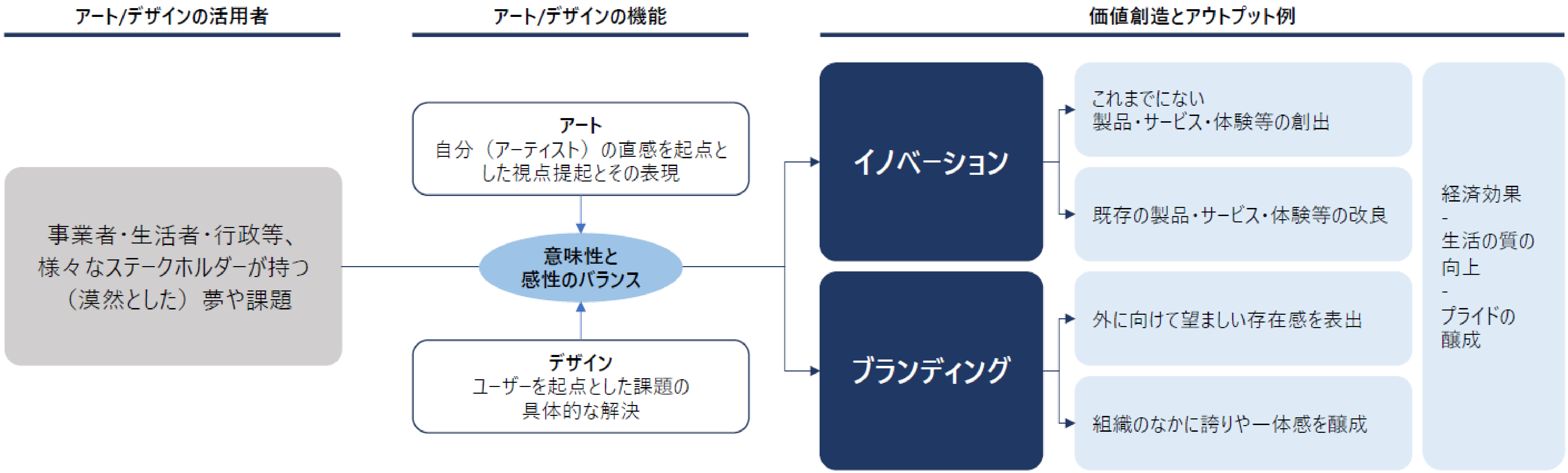
一部の作品は ネットから予約購入可能

展示の詳細は
群馬県HPへ

デザイン/アートを活用した価値創造の考えかた

29 Mar 2024 I GK KYOTO

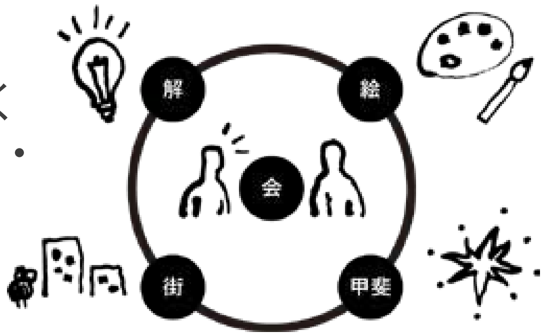
経済産業省 特許庁が掲げる「デザイン経営」において、デザインにはイノベーションの創出とブランドの構築を通して、ステークホルダーの価値を向上させる役割が期待されている。アートも同様に価値のブレークスルーを促進する役割が期待できる。



アート支援団体の育成

一般社団法人 かい

あなただけの “ かい ” をみつけるを
キーワードに、藝術と地域、
ひとのちからで、数値化できない
“ あなたの絶対的な価値 ” に気づく
きっかけ、あなただけの 解・甲斐・
街 をみつける
きっかけをつくるプロジェクトを、
企画-運営-プロモーションまで
一気通貫で実施中

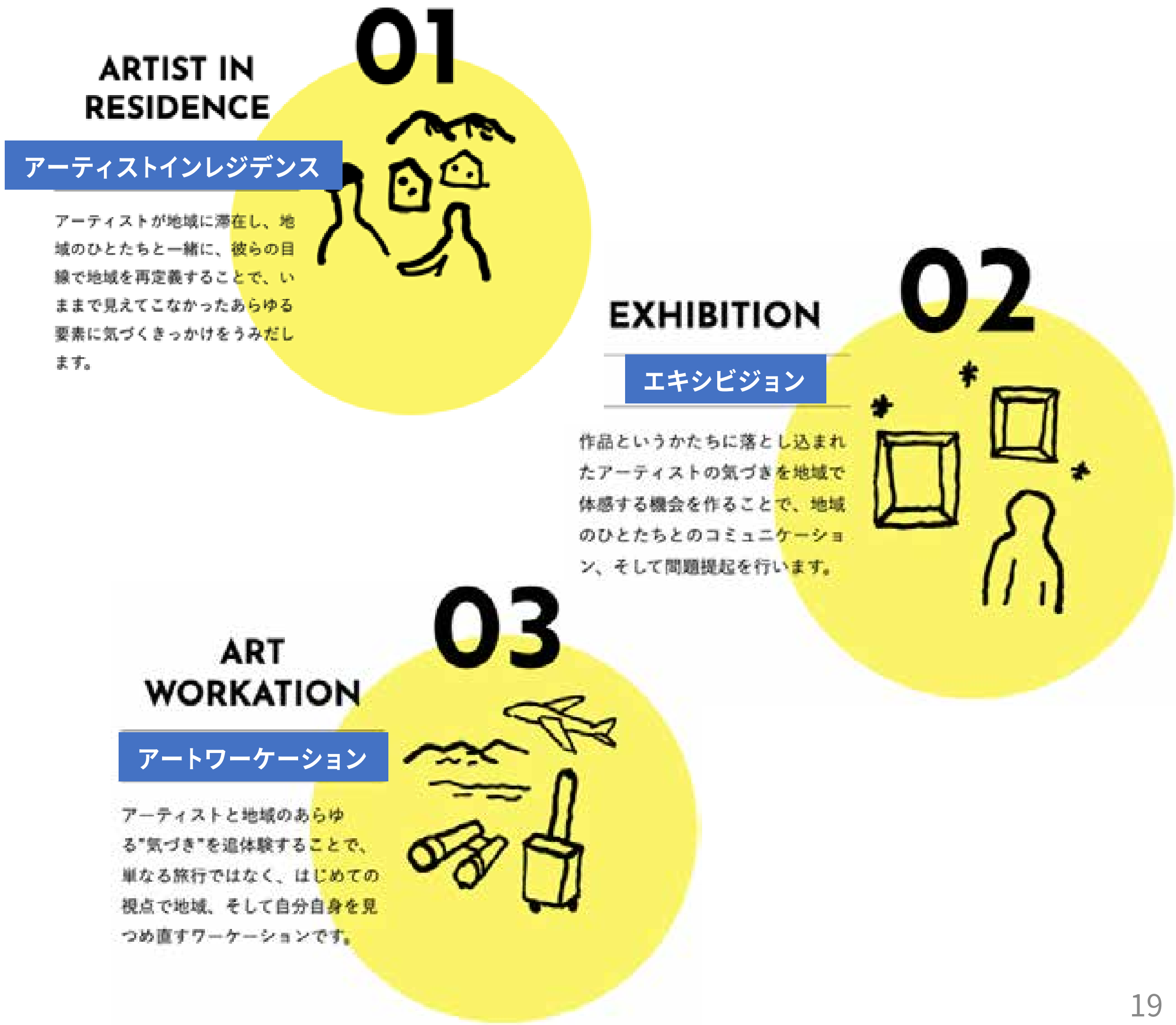


高庭佳奈美：
芸術学部卒、広告・
PR業界出身、航空業
界イントレプレナー

野島祐樹：
旅行業界出身、次世代
ツーリズム、地方創生
テレワーク推進

加藤 遼：
人材業界、シェアエコ、
まちづくり、各種省庁
専門家・委員など

あなただけの“かい”をみつける
新しい地域観光と滞在のかたち、
AIRを起点としたアートワーケーション事業



(参考) 1996年公開 眠る男

- 行政（群馬県）が発意して製作費の全額を税でまかなうという日本では前例のない取り組み
- マスメディアでの露出も多く、大手広告代理店の試算によれば、配給収入とは別に広告ベースで17億円規模の情報発信に相当
- 町の廃校を撮影所として活用した映画作りは、地域の優れた再生モデルとして自治省(当時)の特別表彰
- 東京の岩波ホールでの上映は丸々半年間に及び、単館上映による興行収入の新記録を打ち立て
- メインロケ地であったことをきっかけに、若手芸術家の育成を目的に町内の廃旅館を活用した「吾妻美学校」が開校
- 2006年、卒業制作発表の場として廃校や空き家を使いたいという要望をうけ「中之条ビエンナーレ」を開催
- 伊参スタジオを拠点に毎年「伊参スタジオ映画祭」を開催。フジテレビ「silent」の脚本家・生方美久も奨励賞を受賞。